

○ カンゾウ（甘草）

語 源

カンゾウ属 *Glycyrrhiza* は、ギリシャ語でグリュキユス「甘い」＋リザ「根」の意。甘草は漢字のとおり、根が「甘い」草。

基 原

マメ科 多年生草本
Glycyrrhiza uralensis ウラルカンゾウ
Glycyrrhiza glabra スペインカンゾウ

薬用部分

根及びストロン、時には周皮を除いたもの
※ストロン=走出茎

産 地

中国（山西、西北、東北、内モンゴル）、ロシア、アフガニスタン、イラン、パキスタン

主な薬効

胃液分泌抑制、消化器性潰瘍治癒促進、鎮痙、鎮咳、去痰抗炎症、抗アレルギー、利尿、緩下。

グリチルリチンの分子構造がアルドステロン（副腎皮質ホルモン）と似ており、抗炎症・抗アレルギー作用や穏やかな女性ホルモン様作用をもつ。多量・長期の服用は満月様顔貌（ムーンフェイス）や、麻痺・痙攣などのミオパシー（筋疾患）、低カリウム血症等の副作用が出る可能性がある。

主な成分

トリテルペンサポニン： グリチルリチン
フラボノイド： イソフラボン、リキルチン、イソリキルチン、フォルモネチン
その他： ポリサッカロイド、ステロール、クマリン、アスパラギン

主成分のグリチルリチンは、ショ糖の150倍の甘さを持つため、しょうゆなどの食品の甘味料としての需要も多い。生薬として利用されるのは、主に中国産のものであり、他国より輸入されるものはグリチルリチンの原料として利用される。

代表的処方

漢方処方要薬であり、主剤としてばかりでなく、配合薬間の作用の調和などを目的に配合されることも多い。風邪薬、解熱鎮痛消炎薬、鎮痛鎮痙薬、鎮咳去痰薬、健胃消化薬、止瀉整腸薬とみなされる処方及びその他の処方にきわめて高頻度で配合されている。

【甘 草 湯】

カンゾウトウ
激しいせき、咽喉痛、口内炎、しわがれ声
外用： 痔・脱肛の痛み
（処方内容） 甘草

【大黃甘草湯】

ダイオウカンゾウトウ
便秘、便秘に伴う頭重・のぼせ・湿疹・皮膚炎・ふきでもの(にきび)・食欲不振(食欲減退)・腹部膨満・腸内異常醗酵・痔などの症状の緩和
（処方内容） 大黃／甘草

【調胃承気湯】

チョウイジョウキトウ
体力中等度なものの次の諸症： 便秘、便秘に伴う頭重・のぼせ・湿疹・皮膚炎・ふきでもの(にきび)・食欲不振(食欲減退)・腹部膨満、腸内異常醗酵・痔などの症状の緩和
（処方内容） 大黃／芒硝（※ボウショウ。天然の含水硫酸ナトリウム）／甘草

【甘麦大棗湯】

カンバクタイソウトウ
体力中等度以下で、神経が過敏で、驚きやすく、ときにあくびが出るものの次の諸症： 不眠症、小児の夜泣き、ひきつけ
（処方内容） 甘草／大棗／小麦

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「漢方マニュアル」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

（お問い合わせ） 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562
URL：www.fukudaryu.co.jp

